

平成29年度租税教育実践成果報告書

学校名 熊本市立市三和中学校校長名 永松 一政 

1 平成29年度の実践計画

実践項目	予定期日	実践内容	備考
事前アンケート	6月	生徒の租税に対する意識調査	各担任
職員会議	6月	教職員への計画提案	租税担当
PTA新聞へ依頼	6月	「租税教育実践校」の広報	PTA
税に関する授業	6月	1年歴史「祖庸調と農民の生活」	社会科
租税教室	7月	2年総合「職業と税の役割」	西税務署
生徒作品募集	8月	税に関するポスター・習字・作文・ 標語の作成（夏休み）	国語科・美術科と連携
税に関する授業	9月	3年公民「公共の福祉と国民の義務」	社会科
文化発表会	10月	税に関する生徒作品の展示 税に関するステージ発表	租税担当
道徳の授業	11月	1年～3年「勤労・公共の精神」の 学習 ※2月までには実施終了	道徳担当 各担任
税に関する授業	12月	2年歴史「明治維新の三大改革」	社会科
租税教室	12月	3年総合「私たちの生活と財政」	西税務署
租税教室	1月	1年「税務署の仕事」職業講話	西税務署
事後アンケート	2月	租税に関する生徒の変容調査	各担任
実践のまとめ	3月	租税教育実践報告書の作成	租税担当

2 平成 29 年度の実践内容

(1) 意識調査

租税教育を行う前と後での生徒の変容がわかるように、6月と3月に同じ内容のアンケートを実施した。アンケートの内容は次の通りである。

租税教育アンケート 年 組 ()

みなさん、以下のアンケートに教えてください。(○をつけてください)

- ① あなたは税がどんなことに使われているか知っていますか。
A 知っている B だいたい知っている
C あまり知らない D 知らない
- ② あなたは税が必要だと思いますか。
A とてもそう思う B 思う C あまり思わない D 思わない
- ③ あなたは税を納めなくてはならないと思いますか。
A とてもそう思う B 思う C あまり思わない D 思わない
- ④ あなたは税金についての新聞やテレビのニュースなどの話題に興味を持ったことがありますか。
A よくある B ときどきある C あまりない D ない
- ⑤ あなたは学校の施設や用具を大切に使っていますか。
A 大切にしている B だいたい大切にしている
C あまり大切にしていない D 大切にしていない

(2) 租税教室の実施

① 1 学期 2 年生 (205 名と 2 年部教職員 11 名参加)

2 年生は 9 月にナイストライを控えていたので、「社会生活は税と切り離せないこと、税の意義や大切さを理解すること」を目的に、熊本西税務署税務広報広聴官の大城戸有里様を講師にお迎えした。



(大城戸有里様の講話)



(1 億円の重さを感じる)

以下は、2年生の感想である。

大城戸先生のお話で印象に残ったことが2つあります。1つめは税の種類がたくさんあることです。2つめはDVD「アナザーワールド」です。私たちは毎日整備され、ほとんどごみもない道を使って学校に通っています。でもそれらが税金をみんなが納めているからこそできるということを初めて知りました。税金がないと教育が受けられず、学費を稼ぐために子どもが働いたり、年をとっても年金がないため働いたりしなくてはならなくなるので、税金は必要だと思いました。これからは税の大切さを理解し、きちんと税を納める大人になりたいです。

私は税に対してあまりくわしくありませんでした。しかし私たちの身近に税はありました。税金とは何のためにあるのか、私たちの暮らしにどんな影響があるのか、じっくり考えました。税金とは自分を含めてみんなのためにあり、国民生活がよりよいものになるためにあることがわかりました。今まで以上に税金に対する興味がわきました。また家族や友だちとも税金について話し合ってみたいと思いました。他にも税金についてくわしく調べてみたいです。

税の話聞いて、私は税金を納めることは自分が生活をしやすいするために大切なことだと思いました。子どもの頃は税金をあまりはらわなくていいけれど、大人になると自動車税や住民税などいろんな税を払わなくてははいけません。それを嫌だなという気持ちで払わなかったりする人がたくさん出てきたら、日本はやっていけないので、こういう（租税教室）勉強をやっていき、国民全員が税の必要性を学んでいかななくてはいけないと思いました。

私は税なんてなくなればいいのにと考えていました。でも税がなくなると、とても大変なことになると思いました。税が大切なものだを知ってよかったです。まだ私たちは社会のことや税のことにあまり関心がないので、今日からはもっと社会のことに関心をもとうと思います。私は7年たったら、20歳になって仕事をしていると思うので、しっかり自分の手で税を納めたいと思いました。1億円のレプリカは10キロもあるなんて本当に驚きました。私の妹と一緒に重さでした。

②2学期

（3年生225名と3年部教職員12名参加）

落語を通じて税金を正しく理解するために「租税落語」を実施した。

講師は、社団法人熊本法人会と熊本西税務署のご協力で大阪から笑福亭鉄瓶様をお迎えした。



(熊本法人会 田中賢史様の説明)



(笑福亭鉄瓶様の租税落語)



(写真左：租税落語を楽しむ生徒の様子 写真右：お礼の言葉も笑顔)

以下は、3年生の感想である。(無記名アンケート形式)

税金のことを落語に混ぜていて、とてもわかりやすかったです。税金は社会生活の会費というところが私たちにもわかるようにしてあり、どんなところで使われているかなどがわかりました。大人になったらきちんと税を払わないといけないと思いました。いろんなところで使われており、意外なことや知らないことを学べてよかったです。

普通の桃太郎の話かと思ったら、税金についての話に変わり、内容も濃くてわかりやすかったです。今まで税金に対する知識があまりなかったので、ほくも税金について大まかな説明ができるほどに知ろうと思いました。

落語で楽しく税の勉強ができました。社会人になったら、きちんと税を納めて、納める理由もわかる立派な社会人になりたいと思います。

③ 3学期

(1年生197名と1年部教職員12名参加)

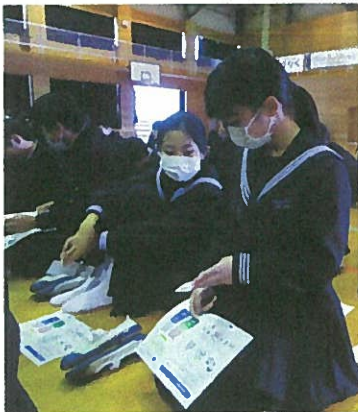
1年生は進路学習も兼ねて、「税の話と税務署の仕事」を学ぶ目的で、熊本西税務署税務広報広聴官の大城戸有里様を講師にお迎えした。



(大城戸有里様の講話)



(生徒も先生も1億円の重さを体験)



(レシートで消費税を考える)



(積極的に質問する生徒たち)

以下は、1年生の感想である。

お話を聞いて僕は税金で教科書が無料でもらえ、地震で、でこぼこになった道を元にもどすためなどのお金にされていたと聞いて、税金は払わなければいけないのだとわかりました。税務署の人はとても大事なお金を守っているのかっこいいなと思いました。100万円の束を持ってとても厚くてびっくりしたけれど、このお金の量よりももっと多い量のお金を管理しているのは本当にすごいと思いました。税のことをくわしく知れたのでよかったです。

私たちは国民のために消費税などを払っているということは、とても大切なことをしていることを学びました。お札の束をさわった時にとっても厚くて、この厚い束の量の倍の税金を少子化対策で支援し、介護、年金医療に使われていると感心しました。最もびっくりしたのが中学1年で101万1千円ものお金がかかっていることにびっくりしました。今回税の話聞いて、私も国民のために税を払って、きちんと税のことについて学んでいきたいなと思いました。

(3) 税についての学習

① 1年社会科「租庸調と農民の生活」6月と11月に実施

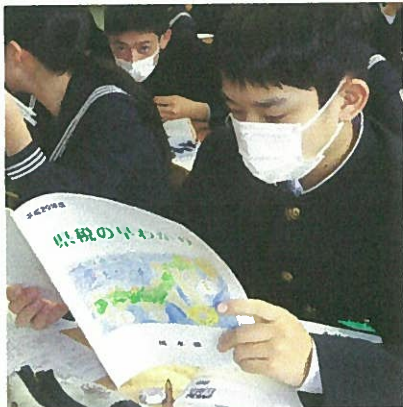
6月に奈良時代の人々の暮らしで、一般の人々の負担として税「租庸調」を学習した。11月は、発展学習として「日本の税の歴史」日本税務協会企画のビデオを視聴し、「わたしたちの生活と税」熊本県租税教育推進協議会の冊子を使用し学習した。以下は1年生の感想である。

私は税金が私たちの身近なところに使われていることは知っていたけれど、大宝律令からちゃんとした税が払われていたことを初めて知りました。私は少しの税金でも払うのは嫌だなと思うことがあるけれど、歴史があって、私たちの払った税金が身近なところに使われているので、しっかり払おうと思いました。



② 2年社会科「地租改正」12月に実施

明治維新の三大改革の一つである地租改正は、政府にとっては一定の収入を得られることで、税制が安定し、税を使って近代化政策を行ったことを学習した。補助教材として「県税の早わかり」熊本県県央広域本部寄贈の冊子を配布し、現在はどんな税があるかを話し合わせた。



③ 3年社会科「公共の福祉と国民の義務」9月と12月に実施

国民の義務の一つに納税の義務があることと、「県税の早わかり」で、税の種類を学習した。12月は、財政の学習で「わたしたちの生活と

税」を活用した。地方財政の学習では「税金って何だ？」熊本西税務署企画のビデオを視聴し、班で意見や感想を出し合い、発表させた。



④ 道徳 クラスごとに「遵法精神・公德心」の内容の授業を実施。

学年	題 材 (クラスの実態に応じて変更可)	項 目
1 年	人に迷惑をかけなければいいのか?	遵法精神・公德心
2 年	仏の銀蔵	遵法精神・公德心
3 年	召集通知～あなたが裁判員になるとき～	遵法精神・公德心

(4) 一日税務課長体験

平成 29 年 11 月 13 日、三和中 2 年生の各クラス代表 5 名が県央広域本部税務部の業務概要について説明を受け、簡易な事務の決済および職員の方々と意見交換を通じた租税教育を受けた。

※お知らせ
県央広域本部から「県税の早わかり」と「わたしたちらの生活と税」の冊子が全校生徒に配布されています。ご家庭で話題にしたいと思いますようお願いいたします。

租税教育

一日税務課長

11/13
(月)

2年生の川野真希さん、岩本侑士君、田野梨花さん、元田結太郎君、井上瑠乃さんが11月13日に県央広域本部で、一日税務課長を務め税の役割や税の行政への理解を深めました。課税第二課長を務めた元田君は「不動産関係の税金の決着書を決済した時に金額の大きさに驚き、職員の責任の重さを実感しました。」と話していました。

SAIWA SCHOOL DIARY [2]

(三和中学校 PTA 新聞「独鈞」12月発行に掲載)

(5) その他の取り組み

① PTA 新聞「独鈷」での広報

お知らせだモン!

三和中学校では平成29年度
租税教育実践校の委託を受けました。
学校で税の学習をしますので、ご家庭
でも話題にいただけましたら幸
いでです。

租税教育とは…
国民の一人一人が税を身近なもの
と考え、税の意義や役割を正しく認識し
てもらうことは、大変重要なことか
ら、税務署では、「税金は国や地方公共
団体が活動するための大切な財源で
あり、共同社会を維持するためのいわ
は会費」であるということを皆さんに
ご理解していただくため、租税教室を
開催しています。

STEP 1
QRコードから
www.gwansin-anzen.jp
に空メールを送信。

STEP 2
登録フォームが返信されます。
表示されているURLをクリック。
メール設定で「@gwansin-anzen.jp」から
の受信を許可してください。

STEP 3
必要項目を全て入力してください。最後に
「登録」ボタンをクリックして終了です。

登録はお済みですか?
三和中
安心メール
登録のご案内

どこでも簡単に、確実に学校や
PTAからの情報を受け取ること
ができます。子どもたちの安全
を守りPTA活動を円滑に行う
ために、皆さまの登録をお願い
いたします。

三和中安心メール協賛社名 ●ゆめタウンはません ●熊本日新聞

SANWA SCHOOL DIARY [1]

② 税の作品の取り組み（国語科）

学年	取り組みの内容	応募数
1年	税に関する習字を夏休みの課題とした。	約 100
2年	税に関する習字を夏休みの課題とした。	約 100
3年	税に関する習字を国語の授業で実施（2時間）	約 200

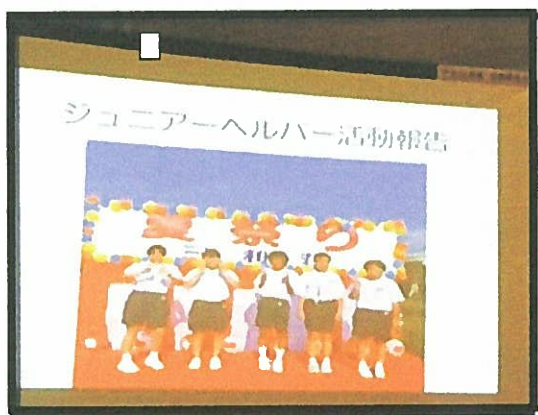
③ 文化発表会で税に関するステージ発表

三和中のジュニアヘルパーの生徒 11 名が、活動報告を劇化し、税に関することを織り交ぜて、ステージ発表した。以下は台本の内容である。

1部：三和荘でのボランティアをした体験で「介護も税のおかげ」

2部：ペルーの中学生と水前寺で交流したとき、三和校区からバスで行くより市電が安いのは「市電も税のおかげ」

3部：地域の方とふれあい給食をしたことで「給食が安いのは、税のおかげ」



※最後に全員で、全校生徒と参観した保護者へ「税の大切さと身近な税に興味を持ってほしい。」と呼びかけた。

3 平成 29 年度の実践成果と今後の課題

(1) アンケート結果から

1 あなたは税がどんなことに使われているか知っていますか。

	6月（実践前）	3月（実践後）
A 知っている	19%	28%
B 大体知っている	64%	63%
C あまり知らない	14%	9%
D 知らない	3%	0%

2 あなたは税が必要だと思いますか。

	6月（実践前）	3月（実践後）
A とてもそう思う	31%	57%
B 思う	53%	38%
C あまり思わない	14%	4%
D 思わない	2%	1%

3 あなたは税を納めなくてはならないと思いますか。

	6月（実践前）	3月（実践後）
A とてもそう思う	28%	55%
B 思う	58%	43%
C あまり思わない	11%	2%
D 思わない	3%	0%

4 あなたは税についての新聞やテレビのニュースなどの話題に興味を持ったことがありますか。

	6月（実践前）	3月（実践後）
A よくある	8%	13%
B ときどきある	37%	37%
C あまりない	41%	32%
D ない	14%	18%

5 あなたは学校の施設や用具を大切に使っていますか。

	6月（実践前）	3月（実践後）
A 大切に使っている	58%	62%
B 大体使っている	41%	34%

C あまり大切にしていない	1%	4%
D 大切にしていない	0%	0%

アンケート結果から租税教育実践後は、全体的によい効果が得られた。ただし、税についての報道への興味の低下は、3月に事後アンケートを行ったため、租税教育の実践から時間が経った影響もあると考えられる。ゆえに継続的に租税教育の実践を続けることは、大事であると言える。

なお、学校の用具に関する回答では、家庭教育や小学校教育の影響もあるので「中学入学以前から、物を大切にしている生徒が多かった」と考えられる。「大切に使っている」と回答した生徒が増えたのは、「学校の施設や用具は税のおかげ」という意識が芽生えた結果であり、「大切にしていない」と回答する生徒が少し増えたのは「税のおかげだから、もっと大切にしよう」という意識の芽生えとも推測できる。

(2) 取り組みを通じて

- ① 租税教室を学年ごとに3回開催した。学年ごとに実施したので、講師との距離が近く、生徒も職員も講師の話がよく聞けたと思う。講話の内容も学年の要求や、成長過程に合わせていただいたので、ありがたかった。学校から配布される月行事表で、年3回の「租税教室」の文字を見ることも、生徒たちが税の大切さを繰り返し思い出すきっかけとなった。
- ② PTA新聞や学年だより、学級通信、熊日新聞（租税落語、一日税務課長）の掲載で、保護者や地域の「税の関心」の啓発にも役に立った。
- ③ 租税教育実践校として、熊本西税務署をはじめ、たくさんの外部のみなさんのご協力をいただき、感謝申し上げたい。開かれた学校として、また地域の学校として、いろいろな方々の来校は生徒にとっても職員にとっても、学びの場が広がるのでとてもプラスでとなった。また県央広域本部「一日税務課長」の貴重な体験も、2年生5名と引率した教職員の宝となった。
- ④ 租税教育実践校として、本校が取り組んだことは、生徒を通じて家庭と地域に税への関心を持ってもらえた。これは、税関係諸機関にとって大いに有効であったと考えられる。最後に「将来の納税者を育てる」という大きな仕事に関われたことに感謝して、報告書のまとめをしたい。